



豊田工業高等専門学校長

山田 陽滋

はじめまして。令和4年4月1日付で豊田工業高等専門学校校長に就任しました、山田陽滋です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。私は、豊田工業大学で22年間、当時助手から助教授と呼ばれた職位で勤めあげた後、産

業技術総合研究所に異動して4年間研究グループ長を務めました。その後、名古屋大学に異動し、教授として14年間勤務しました。私の専門は、ロボット工学および機械安全、そしてこれらの融合分野です。名古屋大学大学院工学研究科に所属していた間、大学の運営には社会連携委員長として貢献した程度ですが、専門の一分野である安全が、法工学や社会技術と呼ばれる社会と深くかかわる科学技術分野でしたので、経済産業省の下で機械安全の技術を広めるための社会システムづくりやロボット安全のための制度設計を行った実績があります。いわば、理系の頭でロボット技術を考えながら、文系の法律や社会システムがどうあるべきかも論じてきたという文理融合研究に深く関わった経験があります。

さて、豊田工業高等専門学校の校長職を拝命した際、私は、国立高等専門学校機構から「校長のビジョン」について作文を求められ、その中で以下の意見を述べました。それは、

学生諸君には自らの専門とは異なる観点でものを考える機会を繰り返し多様に与えることにより、彼らが、1) 卒業後就職を希望する場合には、社会で個々の問題の本質を捉え広い視野に立って課題を設定し、異分野技術者と協創的に取り組めるような姿勢を身に付けてもらい、2) 大学進学を志望する場合には、やがてセミダブルあるいはダブルメジャーの取得を目指してもらえようようなカリキュラム体系をもってサポートしたい。

という一節です。いろいろな視点、つまり多様な考え方を受け入れるということは、物事を進める上で極めて大事な姿勢であり、豊田高専の学生君たちの年代であれば頭も柔らかく、きっと上記の将来像を達成してくれるに違いないと期待をこめて書きました。

ところで、大学のみならず高等専門学校も含めた高等教育機関では、一般教養科目というものが学生君たちの受講のために用意されています。一般教養科目には、やがて工学技術に直結する専門基礎科目だけではなく、人文社会系の科目や

理系でも専門以外の生物や地学といった科目も用意されています。これらを学生君たちが学ぶ意義は、将来知っているのと役立つ知識としてのみあるのでしょうか？私は、そうではないと確信しています。もっと大事な、異なる視点で物考える能力、あるいは資質といってもよいでしょう、を養ってくれる、とても深い意義をもつ過程だと思っています。自分が大学の1～2年の頃は、一般教養科目を受講しても、試験が終わればほぼ頭から消えるものと思っていました（時効後告白）。しかし、冒頭述べました社会システムづくりや制度設計の際には、法律の本を開いたり経済の知識を再度整理しなおしたりする際に、当時の自分の勉強の仕方が脈々と蘇ってきていつの間にか相異なる技術体系を論理的に組み上げ、現実整合する統一的な物の考え方を自ら模索していることを実感しました。

「技術は人が作る」と言います。これはときに、「技術はリクツだけではできない」とか、「技術は人間の諦めない姿勢の先に生まれる」という意味をもちます。これらは、結果的にそうであることを示していますが、これは「多様な考えの中に技術として役立つ真理が潜んでいる」ことを暗示しています。昨今は、文明の急激な発展の代償として、大規模災害や世界的な感染症拡大、少子高齢化やインターネットがもたらす人々の社会的孤立など、ますます問題がグローバル化、複雑化していくことが予想されます。これらを技術で解決しようとするとき、技術者個人の中で、いくつも解決の手段を頭に置き粘り強く考えることができる、あるいは技術者が集まって互いに意見を寄せ合い、その中から解決策を導くことの尊さを深く理解している。このような技術者の資質こそが、今後ますます重要視され要求されるようになっていくと私は考えています。豊田高専では、実践教育の中でこれを一層推進する所存であります。より良い学び舎を築き上げるために、後援会の皆様におかれましてもぜひ、ご理解を、そしてご意見を賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。